

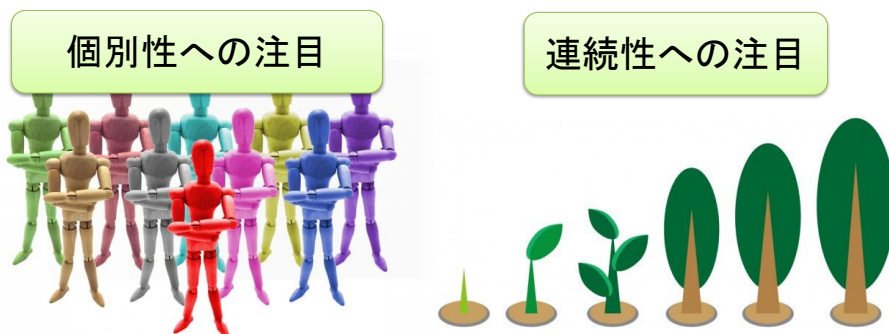
支援サービス提供の新たな試み

高岡佑壮・日下華奈子

(東京発達・家族相談センター 臨床心理士)

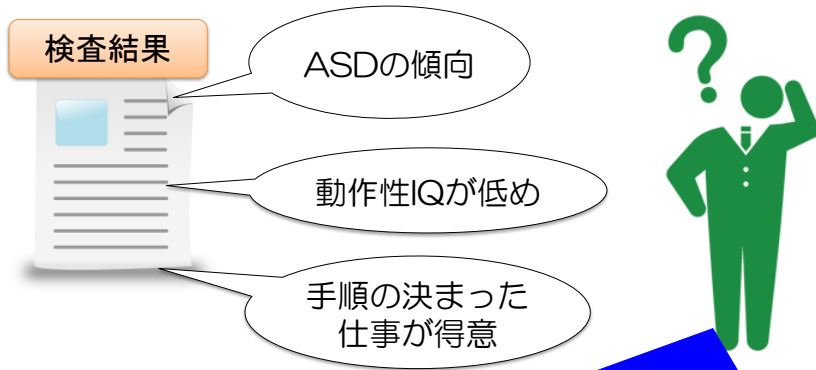
発達障害児・者を取り巻く現状と課題

- 発達障害児・者一人ひとりの**個別性・連続性**を考慮した支援がより望まれる



従来の支援のありがちな問題点1

- 発達検査の結果を「どう活かすか」を細かく伝えられない



「では、何をすべきか」を上手く推測できない人も

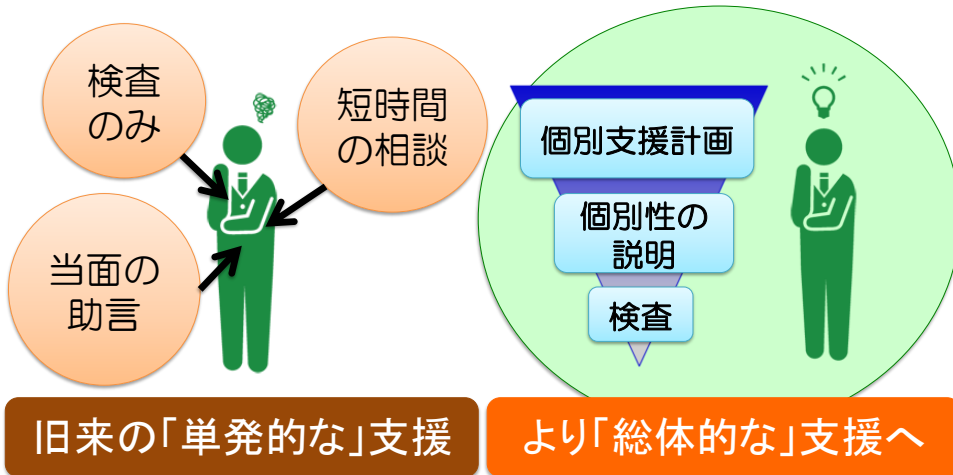
従来の支援のありがちな問題点2

- 目の前の問題を「ひとまず」解決しても、すぐ別の問題が



発達障害ではなく「その子/その人」を理解しないと.....

- 1:「障害があることがわかるだけ」で終わってしまう
- 2:環境ごと、年齢ごとの多様な困り感に対応できない



総体的な支援: 東京発達・家族相談センターの場合

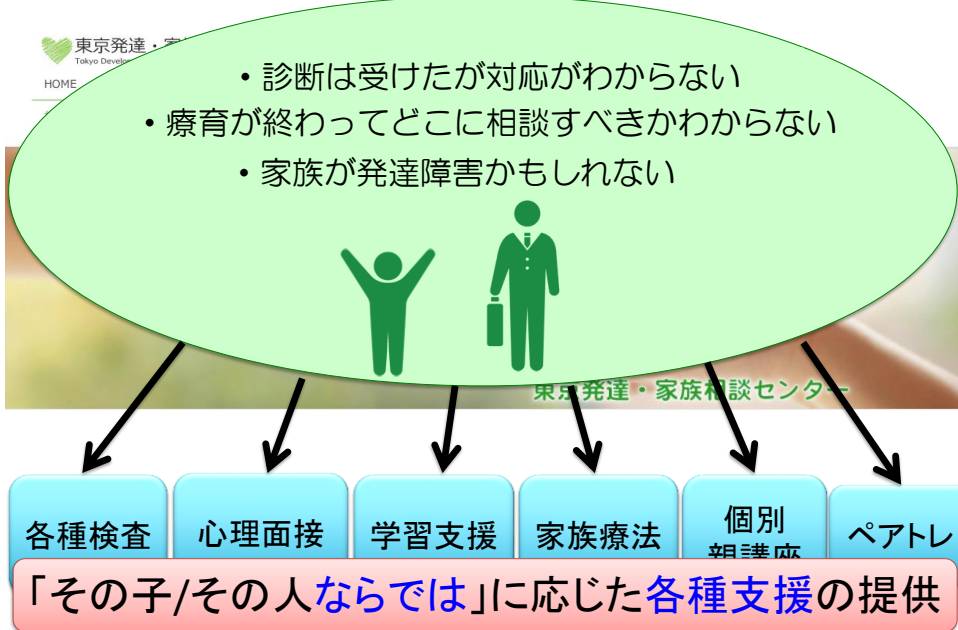
東京発達・家族相談センター
Tokyo Developmental Disorders and Family Support Center

[HOME](#) [相談を考えている方へ](#) [セミナー](#) [写真によるセンターご紹介](#) [連絡先・アクセス](#) [支援者・専門家の方へ](#) [スタッフ一覧](#)

[サイトマップ \(内容一覧\)](#) [ブログ](#)

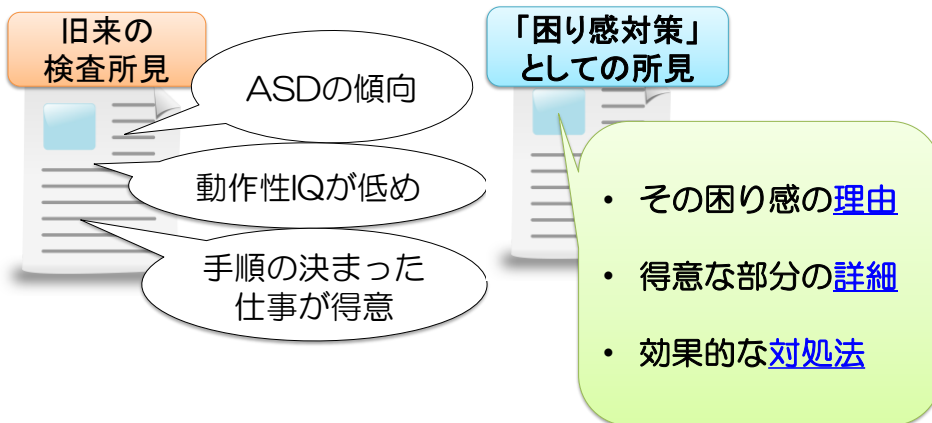
発達障害支援
大人も、子どもも、ご家族も。
発達のご相談、お受けいたします。
東京発達・家族相談センター

総合的な支援：東京発達・家族相談センターの場合



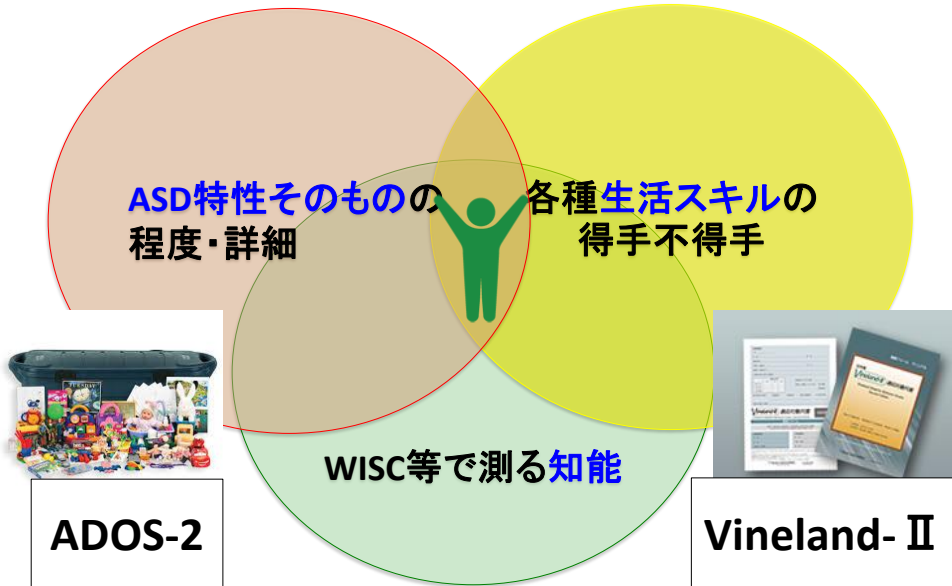
1: 各種心理検査

- ADOS-2・ADI-R・Vineland- II・PARS-TR・WAIS・WISC等
- 結果を「ご本人・ご家族の困り感」に即した形で文章化



1: 各種心理検査

- 「個別性」の理解のため、その人の**多様な側面**を精査。



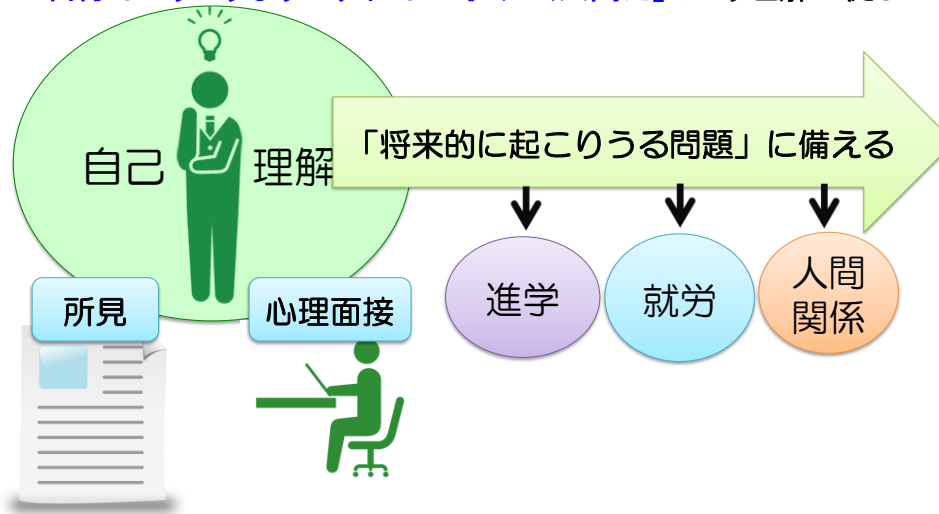
2: 心理面接

- 認知行動療法を基本とした1対1の面接
- 検査所見に基づく、**オーダーメイド**の支援計画

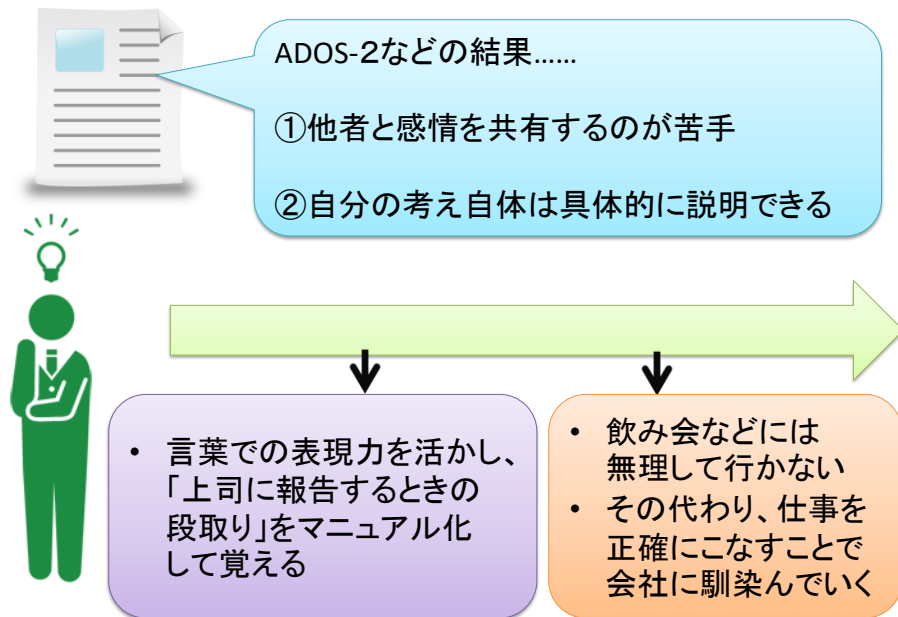


2:心理面接

- 「発達障害だから〇〇をしてみてもは」 ❌
- 「とりあえず〇〇をして終わり」 ❌
- 「自分はこういうふうになれば上手くいく人間だ」という理解の促し



例:「会社で報告・連絡・相談ができず、浮いてしまう」



「特定の困り感」に特化した支援も

勉強が上手くいかない
病院では見てもらえない

子どもが言うことを
聞いてくれない



夫婦・家族で考えの行き違い



「特定の困り感」に特化した支援も

勉強が上手くいかない
病院では見てもらえない

子どもが言うことを
聞いてくれない



3: 学習支援

- 検査結果に応じて「その子に向けた勉強法」を

4: 個別親講座

- お子さんとの関わり方をアドバイス

夫婦・家族で考えの行き違い



5: 家族療法

- 家族それぞれの思いを取り交わすための面接

家族支援と親支援の必要性



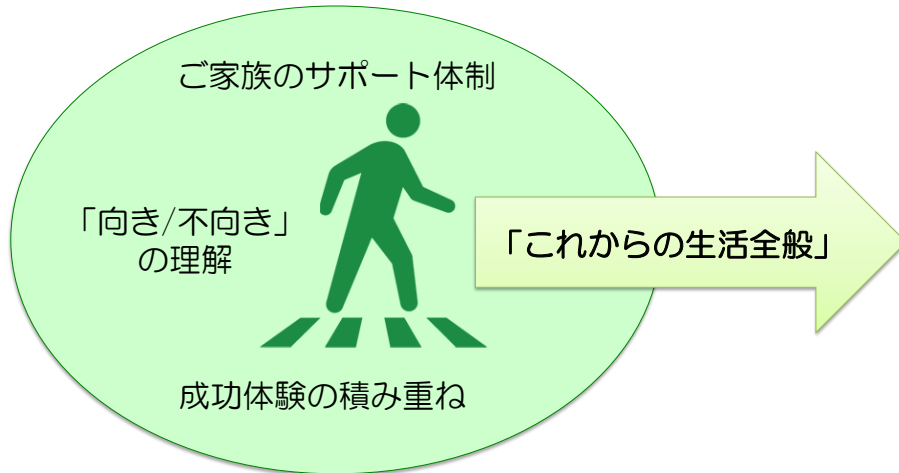
家族支援と親支援の実際

ケースの例より

- 過去どこかでペアトレを受けたが、ピンとこなかった...
- 親子ともども自信がもてません
- 子どもがかわいいと思えない(受容が難しい)
- 子どもの特徴を夫に分かってもらえず責められる
(夫婦間での理解の温度差)
- 子どもの落ち着きの無さに関する相談だが、背景に虐待の問題が絡むケース

まとめ:個別性・連続性をふまえた支援に向けて

- 短期間・短時間・単発で終わる「点」の支援ではなく、
- 「その子/その人のこれから」を支える「線」の支援が重要。
- 得手不得手・家庭環境等の多角的な理解とサポートが不可欠。



- ご清聴ありがとうございました。